

税理士事務所 訴訟時代の生き残り術

～税法以外の法律も、味方、にする～

執筆：鳥飼 重和 弁護士

クローズアップ

第22回

専門分野だけではなく、ツキに関する研修を!

登場人物



早川小百合

税理士。税理士事務所に勤務した後、税務関係を専門分野のひとつにしている三田総合法律事務所に移籍した。好奇心が強く、遠慮なく質問や意見を言う性格。



三田弁護士

三田総合法律事務所の代表弁護士。数多くの税務訴訟・税理士賠償責任訴訟を担当し、税理士界をよく知っている。裏表のない率直な性格で、「何があっても上り坂」が信条。



早川

三田先生、おはようございます。



三田

おはよう、小百合ちゃん。今日も元気そうだね。



ありがとうございます。元気だけが私の取り柄ですから。



元気にあいさつをするというだけで大きな価値がある。それに笑顔が加わっていたら最高だ。



顔を見ながら褒められると、なんだか恥ずかしくなります。



あいさつは当たり前のことだけど、それがちゃんとできている人は案外少ない。



そう言われればそうなのかもしれません。これまでのことを思い出してみると、相手よりもわたしからあいさつすることが多かったですし、返ってきたあいさつが小さくて「元気ないのかな？」って思ってしまったことが少なくありません。



税理士事務所や弁護士事務所って、もしかしたらちゃんとできていない人が多いんじゃないかな。あるいは自分ではやっているつもりかもしれない。でも例えば、会社の掃除をしてくれる人にあいさつをしない人って多いよね。清潔な便所にしてもらってもそれに感謝する気持ちがないのかな。それが仕事だから当たり前だって思っているのかな。それは人間としてとても寂しいことだ。



そうですね。「こんにちは」とか「ありがとうございます」くらいは声を掛けたいです。



あいさつは通りすがりの人のように関心がない相手にはしない。逆に言えば、相手の存在を認めることだ。そう考えれば、きっと「ありがとうございます」などの一声に、掃除をする人は嬉しい気持ちになると思う。仕事の喜びや、自分の存在を認めてもらえた嬉しさを感じるはずだ。



そうかもしれませんね。



そういえば「情けは人のためならず」って本当だと思うよ。人に親切をすると自分にいいことが返ってくるということわざだけど、親切をする心がある人がいろいろなところで親切の種をまいてると、それが縁で、いつか思ってもみないところで花が咲くんだ。



人に対して関心をもつ人は貴重ですから、親切の種まきがあれば、社会は放っておくはずはありません。



親切はとても心に残る。税理士や弁護士もそれをちゃんと理解しておけば、いつか花が咲いて良い仕事ができるようになる。



仰るとおりですね。



先日連泊したディズニーランドのホテルで、心配りの大切さを体験した。そのホテルでは、チェックインの時間が昼12時からだったんだけど、早めにディズニーランドに入園したかったので、午前9時過ぎに連泊予定のホテルに寄って荷物を預けた。



先生のディズニーランドでの定番「イツ・ア・スモールワールド」とかに行きたかったんでしょう。



ちょっと話が外れるけれど、「イツ・ア・スモールワールド」は幸運を呼び込むんだ。明るい音楽と楽しそうな情景を見ると幸せな感じがするでしょう。その感情を自分の心に向かって「とても楽しいです、最高に幸せです。ありがとうございます」と伝えると、本当に幸運を呼び込むことができる。



どうしてそんなことを思いついたのですか？



世の中、努力も大切だけどツキや幸運もとても重要だ。『「考運」の法則』じゃないけど、どうしたらツキに恵まれて運が良くなるかを常々考えていた。そんなときにディズニーランドに行くと、特に「イツ・ア・スモールワールド」にはツキと幸運が詰まっていると感じた。感謝がツキや幸運を呼び込むことは分かっていたので、この楽しさや幸せに感謝しようと思ったんだ。



そうなんですね。先生は「ディズニーランドは、夢と冒険とファンタジーの世界だ」と言っているのも、そのような意味があったのでしょうか。



うん。もうちょっと「イツ・ア・スモールワールド」について語りたいけど、今日は話を元に戻して、ホテルでの体験について語ろう。ええと、どこまで話したっけ。……そうだ、ディズニーランドで大いに楽しんだ後、夕方にホテルに戻ってきた。その直後に驚くことを経験した。それはね、荷物を預けたときにいたホテルの女性が「三田さま、お帰りなさい」と言って私たちを迎えてくれたんだ。



顔と名前を覚えてくれていたのですね。



うん。わたしたちが常連ならまだしも、そうでないのに顔と名前を覚えてくれていたのは嬉しかった。実はそのホテル、過去何回も使っているけれど、そのときが初めての経験だった。彼女の顔を客は忘れない。彼女には巡り会わせて良いことがあるだろう。



そこにはわたしたちも見習わなくちゃいけない点がいっぱいありますね。



いい心掛けだ。われわれはその彼女からサービス業の原点というものを学ばなければならない。



わたしたち士業者はサービス業であるという側面を忘れがちなかもしれません。お客さまへの関心が十分ではない気がします。「センセイ業」と言われてきた時代を引きずり過ぎなんじゃないかな。



そうだと思う。その点で言えば、日税連が研修の受講義務化を進めているってことが『税理士新聞』の記事になっていたけど、ひとつの提案がある。



なんでしょう。



士業者は専門分野の研修ならまだ積極的に受講するかもしれない。ただ、専門分野以外にも研修すべきものがある気がするんだ。幸せを考えることがツキや幸運を呼び、良い客筋と縁ができ、良い仕事に結びつく——そういう実際の業務とつながることを教える研修はどうだろうか。



そういう研修はほとんどないです。専門分野の研修を活かすためには、良い客・良い仕事ができることが必須の前提になるのに。



実学的な発想から考えて、そういうことを学ぶのはとても大切なことだと思う。
(つづく)